

## 令和5年度事業報告書

### 1 概要

京都の伝統・文化や暮らしを支えてきた「京都の自然の恵み」を守り、次世代につないでいくため、生物多様性に関する情報を正確かつ継続的に把握し、収集された知見を基に、生物多様性に係る理解促進や担い手育成、地域や企業の保全活動の支援等を行うとともに、保全に係る様々な主体の連携・協力関係を構築し、効果的かつ持続可能な生物多様性保全するため、令和5年度は「収集」「利活用」「継承」等の分野について取組を展開した。

#### 〈主な事業内容〉

収 集	生物多様性情報の集積・データベース化 ・生物多様性情報基盤構築事業（府立大学委託） ・シンポジウム等の開催 ・標本デジタル化システム導入、関連フォーラム開催	延べ 51,885 件 開催：2 回（8/21、12/10） R6.3 導入、3/17 開催
利活用	多様な主体のネットワーク形成 ・賛助会員の拡大 ・講師派遣等 ・きょうと☆いきもの調査 ・きょうと☆いきものフェス！2023 など	賛助会員：3 企業 講演：4 回 報告件数：34 件 10/8-9 参加者 5,000 人
	保全活動のコーディネート ・企業・団体等との連携等 ・地域と連携した外来講習会の実施（府から受託）	企業：2、団体：1 開催：8 回
	相談対応 ・コーディネート ・来所・電話等相談対応	件数：19 件 延べ 426 人
継 承	環境学習・担い手育成及び情報発信 ・関連施設と連携した環境学習・自然観察会等 ・講師派遣 ・担い手育成研修会 ・ブース出展等 ・SNS による情報発信  ・メールマガジン ・広報誌	6 事業、参加者 339 人 6 回、" 253 人 3 回、" 43 人 10 カ所、" 1,370 人 X：R5.8 開設、計 28 件 Instagram：R6.1 開設 計 10 件 登録者：385 人 R6.3 第 1 号発行
その他	・設立記念シンポジウム ・パートナーシップ協定による保全活動	7/21 参加者 540 名 1 件

## 2 「収集」分野の事業

### (1) 分布などの生物多様性情報の集積・データベース化

#### ア 生物多様性情報基盤構築事業（京都府から京都府立大学への委託事業）

行政、保全団体等が保有する情報の集積・整理・分析として、これまでに 51,885 件（昆虫類 24,823 件、両生類 4,260 件、は虫類 2,603 件、淡水魚類 18,087 件、甲殻類 1,297 件、淡水貝類 815 件）を登録した。

#### イ セミナー「京都府の生きものマップによる新・自然史科学の可能性」

（京都府立新自然史科学創生センター主催）

生物地理・地史に関わるトピックと生物の分布情報から分布要因を探究する事例を通して、京都の生物調査への市民参加・市民科学の可能性を探ることを目的として、京都府立新自然史科学創生センターと共催でセミナーを実施した。

- ・実施日：令和 5 年 8 月 21 日（月）
- ・場 所：京都府立大学 稲盛記念会館 106 室
- ・参加者：48 名

#### ウ シンポジウム「生物多様性からみる京都学 その 1『京都の自然はオモシロイ!』」

きょうと生物多様性センターが取り組んでいる生物多様性情報の集積や利活用のためのデータベース構築、地図化から見えてきた「京都の自然」の面白さについて、知り、学び、共有するシンポジウムを京都府立大学新自然史科学創生センターと合同で開催した。

- ・実施日：令和 5 年 12 月 10 日（日）
- ・場 所：京都府立京都学・歴史館大ホール
- ・参加者：229 名（会場：160 名、オンライン：69 名）



図 1-1 「京都の自然はオモシロイ!」の様子（左）とチラシ（右）

### (2) 各主体における標本・文献等資料の保有状況の把握

#### ア 生物多様性情報基盤構築事業（京都府から京都府立大学への委託事業）

京都府内関連施設の標本・文献等資料の把握のため、京都青少年科学センター、福知山市児童科学館の視察を行い、意見交換を行った。

また、収集・連携の方法を模索するため、京都府立高校生物教育学会との勉強会を実施した後、京都府立亀岡高等学校の標本の視察を行い、意見交換を行った。

#### イ 標本デジタル化システム

民間企業からの寄付金を活用し、府内の貴重な標本や生物多様性に係る文献等の情

報について、府民が利活用できる形で公開することを目的として、標本デジタル化システムを導入した。システムは京都府立植物園の本部オフィスに設置している。

今後、植物園の植物標本及び大森文庫からデジタル化を進め、府内施設（京都市青少年科学センター、福知山市児童科学館、京都水族館など）にある資料についても、デジタル化を進めていくための調整を行うとともに、デジタル化した情報は WEB サイトにて随時公開していく（きょうと生物多様性情報デジタルアーカイブ HP：<https://www.kyotobdc.jp/archive/>）。

#### ウ フォーラム「京都の文化と生物多様性～動植物標本のデジタル化の意義～」

標本デジタル化システムの導入及び京都府立植物園の 100 周年を記念してフォーラムを開催した。

- ・実施日：令和6年3月17日（日）
- ・場 所：京都府立京都学・歴史館大ホール
- ・参加者：140名



図1-2 「京都の文化と生物多様性～動植物標本のデジタル化の意義～」の様子

### 3 「利活用」分野の事業

#### (1) 民間企業や大学等研究機関、保全団体等の多様な主体のネットワーク形成

##### ア 賛助会員制度の創設・運用

民間企業等から支援を進めるため、賛助会員制度を創設し、センターHPにて賛助会員の募集を開始した (<https://www.pref.kyoto.jp/biodic/kigyou.html>)。

賛助会員企業
・(株)SCREEN ホールディングス
・三菱自動車工業(株)
・(株)バイオーム

##### イ 講演等への講師派遣

実施日	内容	場所	参加者
令和5年 5月15日	(公社)京都工業会京都環境管理研究会例会において、センターの取組や生物多様性をめぐる国内外の動向などの講演	(公社)京都工業会	約30名
6月2日	若狭湾生物同好会総会(研修会)において、きょうと生物多様性センターに係る講演	若狭湾生物同好会総会	50名
7月18日	京都八幡ロータリークラブの勉強会におい	石清水八幡宮	20名

	て、「生物多様性と事業活動の関わり」に係る講演	清峯殿	
令和6年 1月31日	京都府生物教育会・大阪府高等学校生物教育研究会（府立・市立・私立高校生物教員）にセンターの活動の他、府内の野生生物の現状や保全活動を紹介するなど、学校との連携を強化していくための講演会を開催	京都府庁、 オンライン	40名

ウ レッドデータブック勉強会「標本が語る京の水辺の原風景」（「自然環境保全京都府ネットワーク」主催）

府内に生息・生育する野生生物の現状を学ぶため、「レッドデータブック勉強会『標本が語る京の水辺の原風景』」を共催で開催した。講演後は、京都市青少年科学センターの新常設展示「京都府レッドデータブックの生物標本展～絶滅した・絶滅のおそれのある生き物たち」について、科学センター職員が解説した。

- ・実施日：令和6年1月28日（日）
- ・場 所：京都市青少年科学センター
- ・参加者：約40名



図2-1 レッドデータブック勉強会の様子

エ 自然環境保全京都府ネットワークとの連携

生物多様性の保全を推進するためには、保全団体との連携が不可欠であることから、多くの保全団体、個人が会員となっている自然環境保全京都府ネットワークとの連携について検討を開始した。

オ 「きょうと☆いきもの調査」

身近な自然や生きものを通して、参加者の皆様が自然に親しみ、生物多様性に関する理解の向上を図るとともに、生息・生育情報を蓄積することで、京都の自然の豊かさ等を分析し、生物多様性の保全に活用するため、京都市が実施していた住民参加型の「京(みやこ)の生きもの生息調査」をより広域に拡大し、住民参加型の生物調査を実施した。

実施期間	対象	報告件数	報告種数
令和5年10月～12月	ドングリ	34件	13件



図2-2 きょうと☆いきもの調査のチラシ

カ 「きょうと☆いきものフェス！2023」

自然に関わる活動の紹介等を通じ、生物多様性についての理解を深化させることを目的として開催し、出展者同士による今後の保全活動の誘導・拡大に向けたネットワーク化を図った。

- ・実施日：令和5年10月8日（日）、9日（月・祝）
- ・場 所：京都府立植物園
- ・内 容：①ブース展示、②ワークショップ、③自然観察会等の屋外イベント、④活動発表会「京都の自然を話そう！京都の自然でつながろう！」、⑤活動交流会「テーマ：生物多様性保全の担い手の拡大」、⑥学識者の講演会「きょうと・いきもの講演会」
- ・参加者：約5,000名
- ・出展団体（個人）：50主体



図2-3(1) きょうと☆いきものフェス！2023の様子  
(左：ブース展示会場、右：野外ワークショップ（植物園によるタネの散布体験）)



図2-3(2) きょうと☆いきものフェス！2023の様子  
 (上段：室内ワークショップの様子、左下：講演会、右下：活動交流会)

#### キ 4 園館連携事業と連携したイベントの実施

京都市動物園、京都府立植物園、京都水族館及び京都市青少年科学センターでは、かけがえのない自然環境の次世代への継承及び体験・啓発を目的として、「きょうと☆いのちかがやく博物館」として連携協定を締結し、1年を通して様々な交流連携事業を展開しており、センターも協力団体として連携してイベントを実施した。

実施日	内容	場所	参加者
令和5年 4月8日	「野生動物学のすすめ2023」 ・体験型ワークショップ（クイズ）の実施 ・シンポジウムでセンターの紹介等を実施	京都市動物園	30名
9月30日	「いきもの広場@植物園」 ・ブース出展（樹脂標本等を展示） ・ワークショップでセンター等を紹介	京都府立植物園	32名
10月16日 ～24日	「きょうと☆いのちかがやく博物館」特別編 in 高島屋 ・ブース出展（パンフレット等を配架） ・21、22日のみ有人でセンター等を紹介	京都高島屋	40名 (10/21分)
令和6年 2月4日	「第18回科博連サイエンスフェスティバル」 ・ブース出展（パンフレット等を配架） ・ドングリを使用したワークショップの実施	京都市青少年 科学センター	100名

#### ク 京田辺市との連携

令和6年2月より、京田辺市環境基本計画推進委員会の委員にセンターコーディネーターが就任した。

## ケ 八幡市との連携

自然観察会をコーディネートし、NPO 法人自然観察指導員京都連絡会(noi-Kyoto)に協力いただきながら、親子自然観察会「はちまんさんの自然を体験しよう！」を開催した。

- ・実施日：令和5年6月10日（土）
- ・場 所：八幡市
- ・参加者：36名

## (2) 民間企業や大学等研究機関、保全団体等の連携による保全活動のコーディネート

### ア 種子保存事業の支援

武田薬品工業(株)京都薬用植物園や京都府立植物園と連携した種子保存事業について、協力体制を組む保全団体の選出や今後の進め方を検討した。

### イ オオハンゴンソウ駆除活動の支援 (NPO 法人自然観察指導員京都連絡会(noi-kyoto)主催)

京都市左京区花脊地区の自然と生態系を守るため、地域住民、NPO 法人自然観察指導員京都連絡会(noi-kyoto)、京都府、京都市等と連携し、「オオハンゴンソウ」の駆除を行った。センターは効果的な防除方法に対する助言を行った。

- ・実施日：令和5年7月16日（日）、10月15日（日）
- ・場 所：京都市左京区広河原・花脊一帯
- ・参加者：111名

### ウ 地域と連携した外来生物対策推進事業（京都府からの受託事業）

地域の自治体や施設管理者、市民団体等と連携して外来生物対策講習会を開催し、周辺の関係者や住民にも参加いただき、外来生物に対する防除のノウハウや正しい知識について知っていただく講習会を計8回開催した。

また、外来種に関する基礎的な情報をまとめた「京都の外来種ハンドブック」、クビアカツヤカミキリの注意喚起チラシを作成し、関連施設等に配布した。

実施日	対象種	場所	参加者
令和5年9月23日	アメリカザリガニ	京田辺市	24名
10月7日	アカミミガメ、アメリカザリガニ、カダヤシ	八幡市	58名
11月30日	アカミミガメ	福知山市	20名
令和6年2月26日	アカミミガメ	京都市伏見区	20名
2月19日	アメリカザリガニ	木津川市	18名
3月4日	アカミミガメ	福知山市	11名
3月4日	アカミミガメ	福知山市	14名
3月13日	アルゼンチンアリ	京都市伏見区	33名

さらに、京都府と連携し、生態や防除方法等を専門家から学ぶ府民向け講習会「クビアカツヤカミキリから京都の桜を守れ！」を開催した。

- ・実施日：令和6年1月18日（木）
- ・場 所：キャンパスプラザ京都
- ・参加者：約100名



図 2-4 「クビアカツヤカミキリから京都のサクラを守れ！」の様子

エ 京都府立植物園との希少種の保全に係る連携

指定希少種の現地調査等を共同で実施(水源の里:ヒメザゼンソウ、シャガの保全等)。

オ 公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金との保全活動

きょうと生物多様性パートナーシップ協定第1号による琴引浜の鳴り砂を守る会との保全活動の実施(5(2)に後述)

(3) 民間企業や保全団体等の保全活動や事業の際の環境配慮などに関する相談対応

ア 個別対応案件

No	件名	内 容
1	株SCREEN ホールディングス	「SCREENの森」(亀岡市)において、自然観察会を2回(令和5年5月20日、9月16日)実施した。
2	武田薬品工業 株 京 都 薬 用 植物園	京都における自然共生サイト認定第1号であり、環境教育や生物多様性に関する取組を進めている同園と、センターとの連携(イベントの実施、種子保存事業など)について検討した。
3	宝ホールディングス(株)	同社の「田んぼの学校」事業について、連携を模索するため現地調査を実施した。
4	株イシダ	京都市東山区にある如意ヶ岳(イシダの森)の活用に係る相談に基づき、アカガシ林自然観察会へ参加した。
5	(大学連携) 京都精華大学 京都産業大学	京都精華大学のインターンシップにおいて、学生を受け入れ、生物多様性に関する情報の提供を行うとともに、「きょうと☆いきものフェス」の運営補助員として活動いただいた。 京都産業大学のPBLで、生物多様性をテーマに活動する学生との合同プロジェクトの検討などを行った。PBL チーム作成した生物多様性クイズなどへの助言を行った。
No	件名	内 容
6	京都大学フィールド科学教育研究センター	公開講演会「シカの食害による芦生の変化ときのご相～新たなモニタリングと協働」において、生物多様性センターの活動について紹介したほか、鹿背山や里山オープンラボ(上賀茂試験地)など相互連携を進めた。
7	NPO 法人国際	宮津市阿蘇海周辺の植生調査を実施するにあたり、現地視察、



	ボランティア学生協会 (IVUSA)	助言等を行った。
8	立命館小学校	どんぐり観察に関する授業に係るコーディネートの依頼があり、講師を紹介した。
9	ムラサキの保全	京都市北区紫野の名前の由来であるムラサキ（京都府レッドデータブック 2015：絶滅寸前種）について、地域住民が地域の活性化を目的に育成等の相談があり、育成、展示等を支援。
10	琴引浜鳴り砂を守る会	京丹後市の琴引浜について、希少生物（海浜生態系）の保全及び連携について、同会と協議した。 「きょうと生物多様性パートナーシップ協定制度」を締結した公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金の支援先として保全活動をコーディネートした（5(2)に後述）。
11	大原野森林公園	京都市西京区にある大原野森林公園の動植物の保全について協議した。 若手研修会のフィールドとして活用した他、大学生等に研究フィールドとして紹介できるようなスキームを検討した。
12	「宝が池」の保全・再生・利活用	京都市左京区にある宝が池公園に関わる方々の対話・連携の場「宝が池みらい共創会議」にメンバーとして参加した。 宝が池の森林資源の利活用に関するプロジェクト Urban Forestry project にも参加した。
13	井手町カジカガエルの復活支援	「カジカガエル保護友の会」が行っている、紀貫之らの和歌に詠まれた井手町玉川のカジカガエルを「復活」させる活動に対し、助言・技術支援を実施した。
14	「わきの山」保全活動	京都市左京区の「わきの山」における保全活動について、(公財)京都市環境保全活動推進協会から基礎データとなる土地利用や植生の整理や、環境モニタリング手法についての調査を受託し、実施した。
15	さすてな京都との連携	さすてな京都（南部クリーンセンターに併設）内のビオトープにおけるモニタリングデータを提供いただいた。 同施設との連携イベントの企画（4(1)アに後述）、展示物作成にあたり協力した（企画展「多様は楽しいで賞 2024」において、賞の命名及び解説文の作成協力）。
No	件名	内 容
16	久御山町ビオトープの作成	ビオトープを作りたいという地域住民（久御山町）からの相談に対し、ビオトープに関する情報及び NPO 法人ビオトープネットワーク京都を紹介した。



図 2—5 対応案件の様子

(左：スクリーンの森（㈱SCREEN ホールディングス）で実施した自然観察会、  
右：IVUSA と実施した阿蘇海周辺の現地調査)

イ 交流オフィス等における相談対応

交流オフィスへの来所や電話、メール等で市民や民間企業等から寄せられる生きもの同定依頼等の相談等に対応した。

相談者	相談例
426 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生きものの同定依頼</li> <li>・ 植物の生育方法の相談</li> <li>・ 外来生物の取扱いに関する相談</li> <li>・ センターの活動紹介依頼 等</li> </ul>

ウ イベントへの後援

保全団体等による取組を支援するため、申請に基づき 10 件のイベントを後援した。

(4) 民間企業等に対する情報と専門的知識に基づく助言、提案

ア 森林や農地などの土地所有者や河川等の管理者への働き掛け

京都府における河川や道路など公共工事の実施にあたり、京都府自然環境保全課を通じて生物情報の提供依頼があったものについて、工事区域における生物情報を提供し、工事における配慮を助言した。

イ 行政の課題への対応に向けた助言・提案等の支援

京田辺市の公園緑地課より緑の基本計画策定に係る生物多様性情報の提供に係る相談を受け、対応した。

(5) 生物多様性地域資源可能性調査

ア 京都府生物多様性ビジネスモデル可能性調査業務委託(京都府から民間企業への委託事業)

京都府内において、生物多様性に係る保全活動を通じて地域にある資源の循環的活用や、地域経済を回す・動かす仕組みを構築するため、新たなビジネスモデルの創出に向けた可能性調査を実施した。

調査では、生物多様性ビジネスモデル地区として、「鹿背山地区・花脊地区・水源の里」の 3 地区を選定し、各地区において「文献調査・ヒアリング調査」を実施したうえで、「生物多様性要素の目標の設定」や「マッチング企業の調査と課題・可能性の検証」「循環的仕組みづくり構築案の作成」を行い、整理した。

#### 4 「継承」分野の事業

##### (1) 資料や情報を活用した環境学習・担い手育成及び情報発信

###### ア 環境学習施設等における事業と連携した自然観察会等の環境学習事業

実施日	内容	参加者
令和5年 7月21日 ～8月24日	きょうと生物多様性センタースタンプラリー ・府内13施設の環境学習施設等と連携して実施	120名 ※
9月2日	スタンプラリー参加者の招待イベント* ・鴨川デルタ付近で河川調査を実施（講師：京の川の恵みを活かす会 代表 竹門康弘氏）	18名
9月16日	スタンプラリー参加者の招待イベント ・武田薬品工業(株)京都薬用植物園の協力の下、園内ツアーを実施	21名
10月8 ～9日	きょうと☆いきものフェス！2023「秋のいきものコレクション」* ・(株)バイオームの協力の下、植物を探すイベントを実施	125名
11月12日	大宮交通公園「公園の未来をつくるスポーツ×アート2023」* ・ドングリを使用したワークショップを実施	30名
令和6年 2月24日	水底にくらす生き物を探せ！かいぼり生き物観察 ～さすてな☆自然観察会～* ・さすてな京都と連携し、かいぼりをテーマにした観察会を実施	25名

※ 特典を受け取った人数

(\*京都府からの受託事業)

###### イ 環境学習事業への講師派遣

実施日	内容	参加者
令和5年 5月20日	京都市立葵小学校プールの昆虫観察会 ・京都市立葵小学校のPTAからの依頼に基づき、夏の水泳授業に向けたプール掃除の入る前のプールで、生きもの観察会を実施	150名
7月29日、 8月5日	洛西高架下こども大学「らくさい生き物ラボ」 ・講師として生きものの魅力や生物多様性を説明	40名
11月3日	キヅキひろば「どングリマスターになろう！— 森の命をはぐくむ謎を追え —」 ・(公財)稲盛財団からの依頼に基づき、補助講師として、生物について解説	42名
実施日	内容	参加者
11月11日、 令和6年 3月23日	11月：秋の御苑でドングリを見つけに行こう！* 3月：春の御苑にさくらを見にいこう！ ・同心児童館からの依頼に基づき、自然観察会における講師派遣や企画検討を実施	21名

(\*京都府からの受託事業)

ウ センターにおける環境学習・担い手育成プログラムの開発

実施日	内容	参加者
令和5年 7月24日、 7月31日、 8月7日	みぢかな生きもの相談会 ・夏休みの自由研究のヒントの展示や身近な生きものに関する相談会を実施	11名
10月	きょうと☆いきもの調査「ドングリ見分け図鑑」の作成* ・京都府内で主に見られる20種類のドングリの見分けシートを作成	—
令和6年 2月3日 2月17日 3月2日	若手のための生物多様性保全研修会* 「河川保全を知る1. 竹蛇籠と河川保全」 「河川保全を知る2. 竹蛇籠の設置」 「森林保全を知る 大原野森林公園保全活動」 ・大学生などの若手を対象に生物多様性保全活動を学ぶ研修会を実施した。	43名
3月	普及啓発リーフレットの作成* センターで実施している普及啓発事業について効果的な発信をするため、普及啓発用リーフレットを作成	—

(\* 京都府からの受託事業)

エ 交流オフィスにおける展示整備

交流オフィスの認知向上を図るため、左京区役所入口に期間限定の展示を行うとともに、生きものに関するイラストを作成し、建物内の階段や廊下など導線上にディスプレイした。

交流オフィス内の常設展示として、啓発パネルや昆虫標本、苔テラリウムの展示、保全団体の会誌、関連図書等を整備した。また、寄贈図書の目録を作成し、来所者が閲覧できる環境を整備した。さらに、活動団体が「きょうと☆いきものフェス！2023」で作成した啓発パネルを活用し、1月～3月に企画展示を行った。

オ イベント等でのブース出展等

実施日	内容	参加者
令和5年 5月13日	2023 左京・東山児童館学童保育所まつり ・ブース出展（センターの周知、クイズの実施）	500名
5月31日 ～6月6日	京都府庁1階ロビー ・センターや生物多様性に関するパネル展示	—
6月6日 ～6月11日	国際会議CGFグローバルサミット@エクスカッション会場（イオンモール京都桂川） ・センターや保全団体に関するパネル展示	—
9月24日	左京区民ふれあいまつり 2023@左京区役所* ・ブース出展（センターの周知、ワークショップの実施）	100名
10月29日	里山里海つながるフェス@イオンモール京都桂川* ・ブース出展（センターの周知）	50名
11月5日	どんぐりまつり2023@宝が池子どもの楽園* ・ブース出展（センターの周知、ワークショップの実施）	100名

11月18日 11月19日	大阪自然史フェスティバル2023@大阪自然史センター* ・ブース出展（センターの周知、ワークショップの実施）	350名
令和6年 2月2日	京都環境フェスティバル@京都パルスプラザ* ・ブース出展（センターの周知、ワークショップの実施）	200名
2月4日	「本と古着、ついでにサステナブル ちよいとそこまで」@大宮交通公園* ・ブース出展（センターの周知、ワークショップの実施）	50名
3月30日	「京と地球の共生府民会議」第27回環境連続セミナー 「VRによる気候変動体験&京都の生きもの学習会」@アル・プラザ城陽 ・ブース出展（センターの周知、ワークショップの実施）	20名

（\*京都府からの受託事業）

#### カ SNS を活用した情報発信

SNS を活用して、情報発信を行うため、X（旧 Twitter）及び Instagram のアカウントを開設した（X：令和5年8月18日、Instagram：令和6年1月29日）。開設から3月末までに、SNS の投稿は X 28 件、Instagram10 件の計 38 件行った。



図3 開設した SNS

（【X】アカウント名：きょうと生物多様性センター、ユーザー名：@KYOTObiodiverse、  
【Instagram】アカウント名：きょうと生物多様性センター、ユーザー名：@kyotobiodiverse）

#### キ HP を活用した情報発信

令和5年4月にセンターの公式HPを開設し、センター事業の情報発信を実施した。

#### ク メールマガ

情報発信のため、令和5年11月にメールマガジンの運用を開始した。

・登録者：385名（令和6年3月末）

ケ センター広報誌（きょうと生物多様性センターニュースレター（第1号））  
センターの取組をまとめた広報誌を作成し、賛助会員や関係者などに送付するとともに、関連施設に配架を依頼した。

コ 寄稿

発行元からの依頼に基づき、雑誌等に寄稿した。

雑誌名	寄稿タイトル	発行元
聖教新聞京都版(9/22付)	共生の未来	聖教新聞社
GLOBE グローブ 117号 2024・4	きょうと生物多様性センターの 取組について	公益財団法人世界人 権問題研究センター
カレントアウェアネス-E(ポ ータルサイト)No. 478 4月 25日(木)発行予定	京都の文化と生物多様性：標本 のデジタル化の意義<報告>	国立国会図書館

## 5 その他事業

### (1) センター設立記念シンポジウムの開催

センターの設立を広く周知するとともに、登壇者の生物多様性に関する取組内容紹介から、生物多様性と人との関わりを考え、生物多様性の行動変容につなげるため、シンポジウムを開催した。

- ・実施日：令和5年7月21日（金）
- ・場所：京都府立京都学・歴彩館大ホール
- ・参加者：540名（会場：360名、オンライン：180名）



図4 設立記念シンポジウムの様子

### (2) 持続可能な運営に向けた取組

ア 賛助会員、協賛の募集（再掲）

賛助会員企業
<ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)SCREEN ホールディングス</li> <li>・三菱自動車工業(株)</li> <li>・(株)バイオーム</li> </ul>

イ 国等の交付金の獲得

令和5年度生物多様性保全推進交付金（生物多様性保全推進支援事業）を獲得し、「収集」「利活用」「継承」分野の各事業を実施した。

ウ 民間企業や財団等の助成金の獲得

- ・民間企業による寄付（標本デジタル化システム）（再掲）

エ きょうと生物多様性パートナーシップ協定制度

民間資金等を活用して、生物多様性の保全活動に取り組む団体を支援等するため、京都府・京都市の制度として「きょうと生物多様性パートナーシップ協定制度」を令和5年9月に創設された。令和5年10月には、公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金、京都府、京都市、センターの4者による第1号の協定を締結した。本制度において、センターは保全活動への助言や指導、技術的支援を行う。

<第1号>

- ・支援元企業：公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金
- ・支援先団体：琴引き浜の鳴り砂を守る会
- ・支援内容：海浜生態系の保全活動を支援（日新電機(株)の従業員やその家族の派遣によるごみの収集や調査の実施等）

令和5年11月3日 現地活動

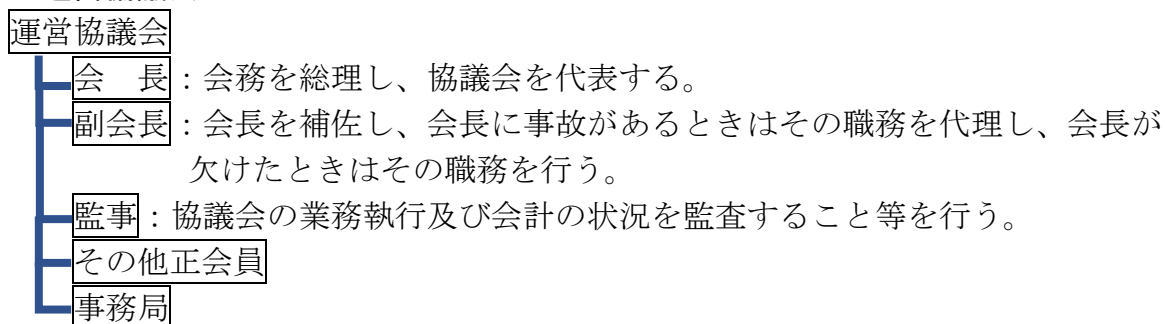
(3) 外部資金の獲得等に応じた追加的取組

ア 地域と連携した外来生物対策推進事業（京都府からの受託事業）（再掲）

イ 普及啓発事業（京都府からの受託事業）（再掲）

(参考) きょうと生物多様性センター組織図

## 1 運営協議会



## 2 事務局

